

科 目 名	レクリエーション支援演習					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	山 田 力 也						
開 講 年 次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	レクリエーション活動現場における実践的支援能力を持った資質の高い支援者の養成を目標とし、「レクリエーション理論」で学習したレクリエーションの基礎知識をベースに、レクリエーション活動現場における具体的な方法と技術を習得し実践できるように教授する。						
授 業 の 到 達 目 標	【知識・理解】 ・コミュニケーション・ワークを理解する。 ・レクリエーション支援の多様性を理解する。 【思考・判断】 ・目的や対象に応じたコミュニケーション・ワークの素材を選択できる。 ・様々な素材・活動を目的や対象にあわせてアレンジできる。 【関心・意欲・態度】 ・レクリエーション活動を自ら楽しみ、積極的に行うことができる。 ・課題に対してグループで協力して取り組むことができる。 【技能・表現】 ・目的や対象に応じたレクリエーション活動を企画し運営（支援）することができる。						
学 習 方 法	実技、グループワーク、発表						
テキスト及び参考書等	レクリエーション支援の基礎 ―楽しさ・心地よさを活かす理論と技術―、（財）日本レクリエーション協会						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%		
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○	◎				20	
授業態度			◎			25	
受講者の発表	○	○	○	◎		30	
授業への参加度			○	○		25	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
	コミュニケーション・ワーク ①② ホスピタリティトレーニング コミュニケーションをとるために必要な態度・行動 対象人数に応じたホスピタリティの示し方 ③④ アイスブレイキング 対象、及び人数に応じた有効な素材の活用法の実際 目的にあわせたレクリエーション・ワーク ⑤ 目的に沿ったアクティビティの選択 視点（対象、提供側）に応じた素材の選択法の実際 ⑥⑦ アクティビティの展開方法 課題レベルを段階的に展開していく指導、及び支援法の実際 ⑧⑨ 相互作用の活用方法 CSS プロセスの実際 対象にあわせたレクリエーション・ワーク ⑩⑪ 対象にあわせたアレンジ法 様々な素材・活動（含、GSD）を対象にあわせてアレンジ 演習 ⑫⑬⑭⑮ 支援実習 各グループの40分のレク・プログラムを実施						
備 考	「レクリエーション理論」を履修した後に受講することが望ましい。 授業の事前・事後にテキストおよび配付資料を熟読すること。 実技ができる服装で参加すること。						